

ケアマネインターンシップ

－身に付く現場教育プログラムの検討－

○千葉道子(埼玉県介護支援専門員協会理事長)、武石正子(埼玉県介護支援専門員協会理事)、
白戸江美子(埼玉県介護支援専門員協会職員)、山本隆雄(埼玉県介護支援専門員協会職員)

Key words :

介護支援専門員実務研修、地域包括支援センター、インターンシップ、同行研修、サービス担当者会議

【目的】

高齢化の進行により要介護者が大きく増加する。これに加え、埼玉県において計画立案中である介護保険給付適正化計画によれば、更なる介護支援専門員の需要が増加する。

埼玉県では有資格約 15000 人いるが、実務に着いているのはわずか 4000 人程度である

また、毎年 1500 人程度の有資格者は増えるが、この方たちの多くの方が実務につくように、県協会として支援していく考えである。

当会が県の受託事業として、はろーケアマネ相談窓口（介護支援専門員の相談窓口）を開設しているが、相談者は孤立して相談する窓口が無いこと、あまりにも基本的なことで先輩や地域包括支援センターに聞けない悩みがあり、実務に着くに不安があることが分かっている。

そこで、現場の指導者と同行して実際に利用者とのコミュニケーションをとり、サービス担当者会議に参加し自信をつけてもらうインターンシップ研修を行うことにした。

【方法】

現場研修にあたり、次のような多くの課題がある。

- どのようなプログラムにするか
- どこで同行研修をやるのか
- 研修先レベルの統一をいかにするか
- 研修期間を何日するか
- 多忙な居宅介護支援事業所にどの程度お願いできるのか
- 謝金はいくら払えるのか
- 受講者の選抜
- 受講費用をいくらにするか
- 受講先で、受講生の囲い込みされないか

そこで、昨年度はモデル事業として行うこととし、当会理事に受講上の問題点、研修生

の受け入れが可能か否かのアンケートを行い、受講先の決定と問題点の洗い出しを検討する。

その結果、プログラムとして、次のような概要とすることになった。

- 1日 座学
- 3.5日 現場同行実習
- 0.5日 报告会・反省会

【結果】

- 実習生受け入れ依頼施設：20施設
- 受け入れ可能施設：3施設
- 受講者：5名（介護福祉士2名、看護師2名、ほか1名）
- プログラム

研修日	研修時間	研修内容	研修場所	研修実施状況	研修実施結果
1	1日	座学	研修センター	実施	研修生が研修内容について理解を深めた。
2	3.5日	現場同行実習	現場施設	実施	現場での実践を通じて、介護支援専門員としての役割や業務内容について理解を深めた。
3	0.5日	报告会・反省会	研修センター	実施	研修生が現場での実践について報告し、研修生同士の意見交換を行った。

と、現場の指導者と同行して実際に利用者とのコミュニケーションをとり、サービス担当者会議に参加し自信をつけてもらうインターンシップ研修を行うことにした。

- ・ 研修後の受講者実務状況
ケアプラン作成に関わっている 2 名、
居宅介護支援事業所に勤務予定 2 名、
不明 1 名
- ・ 受講者の感想
実務研修では演習もあるが、実際に利用者が居ないので臨場感は無かったが、家庭への訪問やサービス担当者会議で実際の雰囲気学ぶことができ自信がわいてきた。

【考察】

- ・ 事業者にとっても、丸 3.5 日受講者と同行するので、緊張感にストレスがたまるので大変な研修である。
- ・ 受講者にとっては、実際の研修ができるので、実務研修で学んだことを直接体験することになり、学びと理解が進みケアマネの仕事に着く自信が湧く。
- ・ 良き指導者にめぐり合え、今後の励みとなるので心強い。

【結論】

インターンシップは孤独な介護支援専門員に自信を与え、実務にチャレンジできる研修と考える。

しかし、当協会で支援できる人数は毎年 10 名程度であり、おのずと限界がある。

介護支援専門員の指導、教育を担当する地域包括支援センターにおいて、このプログラムを活用してもらい、多くの研修が受けられることを期待したい。

さらに、ケアマネジメントの専門性、質の底上げを考えると、将来、実務研修の一環に組み込まれるべきではないかと考える。